

令和8年度 第2回気高地域振興未来会議議事概要

日 時 令和8年5月26日（火）14時00分から16時00分

場 所 気高町総合支所 2階会議室

〔出席委員〕

地原伸、原克栄、大原友美、河根裕二、渡辺雅子、片山敬子、木村明則、
湯口正子、荒尾純子、松井千晶、武田敏男、田中敦志

以上12名（順不同敬称略）

〔欠席委員〕

なし

〔事務局〕

中原支所長、田淵副支所長兼地域振興課長、森本市民福祉課長、小宮地域振興
課長補佐

〔鳥取市健康こども部こども家庭局 こども家庭センター〕

小野澤局長、森田所長、太田係長

〔傍聴者〕

なし

◎議事概要

1 開会

2 報告事項

（1）乳幼児健康診査の実施体制の見直しについて

【こども家庭センター】来年度予定されている乳幼児健診実施体制の見直し
について説明をおこなった。

【委員】健診時に読み聞かせボランティアを22年ほどしている。健診に行き
近くの住民等に出会うことで、身近に感じてもらえるのは会場が家の近くで
あるからこそで、会場が遠くなることによって、ボランティアの人の生きが
いもなくなる。来年の4月からということではなく、地域での繋がりの方も
考慮して段階的に見直していく方法もあるのではないかと感じている。

【こども家庭センター】現在各保育園にある子育て支援センターでの活動を
今後充実させていきたいと考えている。子育て支援センターには同じ年代の

子どもが集まっており、そのなかに地域の方がボランティアとして、ふれあいに来ていただいている話をよく聞いている。そういった活動を通して今後子育て支援が後退することがないように進めて行きたいと考えている。

【委員】乳幼児健診は、健康状態を見て保健指導に繋げるだけではなく、地域での状況把握やお母さん同士の情報共有の場だと考えている。それが地域で行われることはとても重要であり、地域ボランティアをはじめとした保健機関の関係者の顔を知るためにも大切な機会だと捉えている。それを中央で一括して実施することには疑問点が残る。小さい場所で行った方がより丁寧に行けると認識しており、保健師の顔を知るせっかくのよい機会が失われてしまう。一元化することについては違和感がある。

【こども家庭センター】新生児訪問時に本市では保健師を校区ごとに分担しており、担当保健師が産後の1ヶ月の新生児訪問時から少し気になる家庭に対し、継続した訪問を続けて、母親や子どもとの繋がりを持っている。その他にも場合によっては栄養士による訪問を実施することで、丁寧なつながりを大切にしながら続けており、こういったことを今後も続けていきたいと考えている。

【委員】保健師と家庭との関係もよくわかるが、母親同士の関係も同じくらい大切だと考えている。保育園やその中にある子育て支援センターを使うということも理解できてはいるが、やはり最初は健診を受診することで、身の回りに自分と同じ立場の母親がいるという横の繋がりについてどのように考えているのか教えてほしい。

【こども家庭センター】健診で初めて他の母親に会う母親もあるが、2から3か月のお子さんを連れて子育て支援センターや保育園に行く人もいる。旧市内であれば産後サロンを実施しており、同じ月齢の母親と子供を対象に実施している事業もある。これらの事業については気高町在住のお母さんにも出してもらっているため、そういった意味で顔の繋がりはこちらとしても大切にしているところである。

【委員】資料にはメリットの記載ばかりであるが、デメリットも事前に記載があった方がよいと考えている。少子化になったから縮小しました、一元化しましたということではなく、少子化に歯止めをかけようとしている国の方針に市が逆行しているように感じる。このようなことが続くといわゆる心の

通わない行政になってしまう。

【こども家庭センター】デメリットに距離的なことを記載していなかったことはお詫びしたいと思う。現在子育て支援で大切にしていることは、妊婦時から気になる家庭は必ず把握したうえで、各地域に担当支援員が配置されており、妊婦時から出産後も関わって訪問型の支援を継続している。また、支援が必要であるケースが集団健診時に把握された家庭についても個々に支援を継続していくことを現在市が目標としているところであるため、その点についても理解してほしいと考えている。

【委員】気高だけで見ても対象人数が 40 人くらいおり決して少ないわけではない。それを全部統合するという話であるが、1 回あたり何人ぐらいの受診者を想定しているのか。

【こども家庭センター】統合をすると 1 回あたりの健診受診数は 1 回当たり 30 人を超えないよう人数設定をおこなっているため、もしも 30 人を超過しそうな場合には、3 回実施している健診を 4 回に増やして人数設定をしている。

【委員】それであれば、現在気高でおこなっている受診者が 40 人の状況とあまり変わらない。子どもを遠くまで連れて行くこと自体が重労働で、人数が増えれば増えるほど、本当に子どもをその時間中にじっとさせておくとか、機嫌を取ること自体が結構しんどいと思う。そういうものを例えば 30 人でこの日が予約できないので、次の予約を取っていかないといけないものであるのか。

【こども家庭センター】1 回あたり 30 人ぐらいの人数で設定している。支所域での健診ではどうしても 1 人の医師や保健師の数に限りがあり、旧市でやる場合には、医師や専門職についても約 3 倍もの数の確保ができる。一方で待ち時間としては、受付時間を早い時間や遅い時間といったように 2 回にわけられているため、滞在時間を短くするような工夫がなされている。

【委員】先ほど子育てサロンなど地域でのサークルの話があったが、気高町もだんだん人口が減ってきており、地域で子どもたちを育てていこうかという機運が高まってきている。その一方で中央の遠いところまで健診に行かなければならない。地域振興未来会議で我々委員に声を聞くよりは、保護者や関係者から意見を聞くことが一番大切なことではないかと思っている。

(2) 気高地域未来プラン実施計画について

【事務局】昨年度より始まった気高地域未来プランのより細部である実施計画について、実績と今年度計画について説明をおこなった。

【委員】この実施計画について、市全体としての上位計画との整合性が一貫出来ているのかが見えてこない。どのような市の計画があってそれにどういった形でこの地域未来プラン実施計画が結びついているのか、もっと具体的に説明してほしい。もう一点は、この実施計画を見た時に令和 7 年度の実績として、目標達成度や事業の方向性の表現が決まったものであることはわかるが、特に目標の達成度は未達で、事業の方向性は継続と表記されているとどういったことを継続するのが具体的に見えてこない。

【事務局】市全体としては、第 12 次総合計画は地域未来プランの上位計画にあり、それを受けて各総合支所で地域未来プランを昨年度策定して取り組んでいるところである。そういった意味では市の上位計画と整合性をとって事業を実施している。もう一点の実施計画の記載内容で目標達成度や事業の方向性については、確かに目標達成度が未達で、事業の方向性が継続といった表現は疑問が残るところであるので、未達だった場合に今後こういった改善点を踏まえて、次年度以降継続していくといったように表現を工夫していきたいと思っている。

【委員】不便になるとどうしても人が流れてしまうところがあるので、やはり便利な部分というのは確保しておいてほしい。人との繋がりは 1 回切れてしまとなかなか復元できないので、そういったところを大切にすることが必要だと思っている。地域の繋がりを大切にするのであれば、それは政策に生きてこそではないかと思うので、今後も声を大にしていきたい。

【委員】逢坂小学校が閉校になって、2 ヶ月が経過した。僅かな期間であったが放置していると雑草などがあつという間に生えて、先日も地域で草刈りを実施した。その際に校舎を 3 年間放置するとどこかで聞いたという保護者もいたりして情報が錯綜している。支所で何か聞いているような情報があれば教えてほしい。

【事務局】逢坂小学校の体育館とグラウンドについては、引き続き利用しこれまで通り使っていくと聞いている。廃校舎については、今のところどうするかというのを地元の方と話をしながら、ここ数年の間に結論を出すといったこ

とを聞いている。

【副会長】未達が12項目あって令和7年度未達だったことに対し、令和8年度どのような対策を立てて、少しでも達成に近づけるのかというところで、具体的な改善策についても掘り下げたの記載が少なく、何とかしたいと考えている。特に浜村温泉街の再生で新泉共同浴場の一般開放とあるが、その他にも例えば温泉街に幟旗を立てるとかいったことしか思い当たらない。支所としてどのように考えているのか。

【事務局】支所としては、観光協会をはじめとした関係団体との更なる連携を図って、温泉街の再生といった地域課題解決に向けて取り組んでいきたい。引き続き地域振興未来会議といった会議でも有識者の皆さんからの意見を参考にさせていただきたい。

(3) 自然資本産業誘致・振興事業について

【事務局】日光地区を中心として、事業展開を実施しているエーゼログループの昨年度実施状況の報告と今年度予定されていることについて説明をおこなった。

【委員】具体性や将来の見込みについて、この資料を見る限りではまだわからない部分もある。今後は県のネイチャーポジティブの部署とも連携しながら事業を進めていって、それによって気高町がどのくらい変わって、今後発展していくのかということがまだ具現化できていないように思う。

【事務局】いよいよ6月から日光事務所が開所し、日光が地域拠点として動き出すので、そこを中心に広がって行って、いずれは鳥取市全体に広がっていくものもあれば、起業支援プログラムといった起業型の地域おこし協力隊を全国から広く募り、鳥取に来てもらうことで起業し、新しい事業展開することでまた新たな可能性が見いだせるといったことも考えられる。いずれにしても今後も進捗状況がわかり次第、随時報告していきたい。

※次回日程について

令和8年7月21日（火）14時からとし、後日改めて連絡する。

以上